

2017年度

常磐会総会

2017.9.3

敬創業 校訓
愛造和 訓



contents

福岡県立京都高等学校常磐会総会誌目次

校歌（高女・高校）	P01	進路概況	P11
常磐会会長挨拶	P02	部活動活動状況	P12
京都高等学校校長挨拶	P03	定時制職員一覧・近況報告	P13
実行委員長挨拶	P04	恩師からのおたより	P14
記念事業	P05	卒業生からのおたより	P19
常磐会総会イベント実績	P06	思い出のアルバム	P24
常磐会会則	P07	協力回生のつどい	P31
校歴代会長・校長	P08	協賛広告	P32
常磐会本部役員名簿	P09	索引	P76
職員一覧	P10	実行委員会組織図	P80

京都高等女学校校歌



古鏡を表す銀台に七宝で隸書の「京女」を打ち出す。京女を松葉になぞらえ、「常磐」の意味を象徴している。

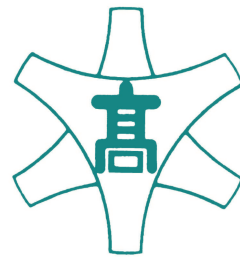
作詞 小川直熙
作曲 新清次郎

一、京都を名に負う 学の窓に
常磐の契りを 結べる友よ
みくにの前途の 運命を擔ふ
母こそわれらぞ 使命は重し
雅に優しく かざりをいとひ
まごころこめつ、いそしみつとめ
四年の教訓を心に秘めて
母校のほまれを伝へむ永遠に
みやこ みやこ
われらの みやこ



二、英彦の高嶺のこごしき坂を
書籍よむわれの 訓と仰ぎ
周防の大灘 たたふる水の
清きを貞操の 鏡とあがめ
からだをきたへて 皇国につくし
平和の使と 雄々しく立たむ
かくてぞひろがる 母校の誉
いざ声そろえて たたえむその名
みやこ みやこ
われらの みやこ

京都高等学校校歌



「京」の字を表す構図の中心に「高」の文字を白く浮き上がらせたもの。

福井直秋 作曲
島田芳文 作詞

一、風薫る 若き世紀の 朝ぼらけ
揺がぬ姿 英彦山
学びの窓に 仰ぎ見て
ここに誓いし 若人われら
文化の京都 その名もゆかし
ああ躍進の わが母校

二、水清き 尽きぬ流れの 今川の
たゆまず注ぐ 周防灘
真理の深さ 究めつつ
ここに競わん われらが腕
希望は芽えて 聖火は燃ゆる
ああ新興の 意気昂し



三、天地の 恵み豊かに 野に充ちて
夕陽に映ゆる 平尾台
聞け遙かなる 自治の鐘
ここに築かん 理想の庭を
友愛清く 華吹き乱る
ああ青春の この三歳

四、爽やかに 若き眸の 眉あげて
見よ美わしの 常磐木は
わが学び舎の 誇りなり
ここに創らん われらが歴史
校風永遠に 輝きわたる
ああ栄光の わが母校

ごあいさつ

Creetings



常磐会会長

若山直樹

(高校22回生)

会員の皆様には、ますますご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

まず初めに昨年度、母校京都高校の創立100周年記念事業につきまして、会員の皆様には絶大なるご支援、ご協力を賜りましたこと、厚くお礼を申し上げます。お陰をもちまして創立100周年記念事業は滞りなく、大成功裏に終えることができました。昨年10月末に挙行されました記念式典は100年の歴史と伝統

にふさわしい立派な式典であったと、来賓各位はじめ、関係各位よりお褒めの言葉を頂いております。重ねて、常磐会会員総数も本年3月の卒業生の入会で3万名の万台を超えました。常磐会会員として、これに勝る喜びはございません。母校の隆盛は常磐会の最大の使命です。母校は本年度より次の100年に向けて、新たなスタートを切っております。会員の皆様には今後ともますますのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

げます。

さて、本年度常磐会総会の当番回生は、昭和60年卒業の高校37回生、定時24回生、平成10年卒業の高校50回生、平成22年卒業の高校62回生の皆様です。大村重彦実行委員長のもと、しっかりと準備をして頂きました。特に、本年から記念講演の会場がコスメイト行橋へと変更になりました。収容人数も少なくなり、その準備には大変ご苦労なされたことと思います。実行委員の皆様のご努力にあらためて感謝申し上げます。また、本年度総会にあたり、ご協賛頂いた皆様、この経済情勢下、多大なご協力を賜り誠にありがとうございます。皆様のご厚意は本総会の運営、また現役高校生への教育活動の援助にと大切に使用させていただきます。

最後になりますが、母校京都高校は現在、県下数少ないスーパーグローバルハイスクール(SGH)に指定され、世界にはばたくグローバルな人材育成に取り組んでいます。常磐会としてもしっかりと支えてまいりたいと思います。新たな100年に向かって、母校京都高校のますます

すの隆盛と、常磐会のさらなる発展を願ひ、私のごあいさつと致します。



ごあいさし

Greetings



校長

田中浩子

常磐会の皆様には、日頃から本校の教育活動に物心両面からのご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。また、昨年度は学校創立100周年を祝う各記念事業に際しまして、多大なるご高配を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。記念式典を始めとする記念行事では、生徒たちが主体性を発揮して取り組み、立派な姿を披露してくれました。体験を積み上げること成長していく様子を目にし、頼もしく感じたこと

ろです。本年度は学校創立100年であり、職員も生徒も京都高校の輝かしい歴史と伝統を受け継ぐとともに、新たな歴史を刻む躍進の年と捉え教育活動に励んでおります。さて、国では加速度的に変化する社会に対応して遅く生きる人を育てるために教育改革が推進されています。そのため、高等学校教育においても、生徒一人一人が21世紀の担い手として成長するに必要な資質や能力を身に付けることが強く求めら

れています。そこで本校では、文部科学省のSGH（スーパーグローバルハイスクール）研究指定を受け開始した平成27年度から、学校の将来ビジョンを「地域のみならず世界を舞台に活躍する将来のグローバルリーダーの育成」として掲げ、授業や学校行事はもとより部活動などにおいて生徒の主体性を育む教育活動を展開しております。

昨年度は、卒業生268名の内106名が国公立大学に、難関私立大学にも多くの生徒が合格しました。また部活動等では、陸上部走り高跳びでインターハイ出場、吹奏楽部打楽器アンサンブルコンテストで九州大会出場、高等学校総合文化祭弁論部門で九州大会出場を果たすことができました。さらに本年度は現時点で、高等学校総合文化祭弁論部門及び囲碁将棋部門で宮城県で行われる全国大会への出場権を獲得しています。多くの生徒が部活動に加入し、放課後の限られた時間の中で生徒と職員が一緒に汗を流している姿は、まさしく文武両道の校風から成るものであります。

本年度は、目指す生徒像を「志をもつて意欲的に学ぶ生徒」「自律心とおもいやりの心をもつ生徒」そして「困難に立ち向かうことができる逞しい生徒」とし、全職員一丸となってその育成に努めております。また、SGH（スーパーグローバルハイスクール）も今年で3年目を迎え、5年間の研究指定終了後もグローバル人材の育成を目指した特色ある教育活動を継続すべく、さらに事業内容の充実を図っているところです。

今後も全職員で力を合わせ、百年の歴史ある伝統校として質の高い教育を提供し、かつ生徒が勉強や部活動および学校行事に主体的、積極的に取り組むことができる教育環境づくりに尽力いたします。

おわりに、常磐会の皆様のますますのご健勝とご活躍を心から祈念いたしますとともに、母校の教育活動に對しまして変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。現状報告とさせていただきます。

ごあいさつ

Greetings



実行委員長

大村重彦

(高校37回生)

常磐会員の皆様、京都高校関係者の皆様、地域住民の皆様、2017年度常磐会総会実行委員長、高校37回生の大村重彦です。

今年度実行委員会である、高校37回生、50回生、62回生、定時24回生を代表してご挨拶申し上げます。

常磐会は、京都高校卒業生の同窓会として、毎年4世代の回生から組織され運営と親睦を図ります。毎年違う顔ぶれで行われますが、先輩方

の熱い想いを絶やすことなく、母校の発展に寄与する目的で活動を継続しております。

初めて当番回生を経験した時は、分からないまま何も出来ずに終わってしまいました。それでも先輩方は私たちが可愛がつてくださったことを思い出します。

あれから25年、62回生に当時の自分の姿を想い浮かべながら、伝えていくことだけを考えております。

さて、京都高校におかれましては昨年、創立100周年を迎えました。年間を通じて多くの記念事業が開催され、常磐会総会も盛大に行われました。高等女学校として創立して以来、卒業生も三万人を突破し、国内外を問わず、あらゆる分野で活躍されております。

今年度の実行委員会は、次世代の100年に向けてスタートの年となり、講演会・総会・懇親会も、次年度以降の二本となるべく、実行委員会を開催してまいりました。

拠点を新たに行橋コスメイトホールに移行すること、遠来者の方々への配慮のため時間帯を早めること、豊津高校(育徳館)錦陵同窓会とのエールの交換、その他など。

講演会は、戦場カメラマン渡部陽一さんです。今日の日本は平和で飽食の時代を迎えております。その反面、自己中心的な考えをもつ一部の人間たちによる凶暴な犯罪・事件が後を絶ちません。そこで「生きる」ということ、世界からのメッセージ」と

いう演題で世界の現状を講演していただきます。

世界各地にある戦場の悲惨な地域を見てまわるも、優しい口調で語りかけてくれる渡部陽一さん。この度は戦場へ取材に向かう日程を変更し、常磐会のために行橋で講演していただけるとの事です。一人でも多くの方に講演会に参加いただければと思います。

そして、実行委員会の運営にあたり、景気低迷のなか貴重な協賛広告ならびに寄付金をいただきました常磐会員様、地域の企業やお店の皆様、誠にありがとうございます。

今後とも、引き続き常磐会の運営にご協力をお願い申し上げます。また、この常磐会総会誌を手にする皆様には、可能な限り、協賛していただいた企業やお店をご利用いただければ幸いです。

最後に、京都高校・常磐会・地域の皆様のますますの発展を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

福岡県立京都高等学校同窓会
2017年度常磐会総会記念事業

生きる
ということ

世界からの
メッセージ

2017年

9月3日(日)

開場/9:30 開演/10:30

場所 **コスメイト行橋**

行橋市中央1-9-3 TEL0930-25-2300

入場料 **1,000円**
コスメイト行橋で発売中

全席自由 ※入場は開場後、
先着順でご案内
します。

渡部陽一氏
講演会

戦場
カメラマン

チケットお問い合わせ先

コスメイト行橋
☎0930-25-2300

常磐会総会・懇親会

懇親会会費:4,000円

期日 2017年9月3日
◆総会 13:00
◆懇親会 14:00

会場 **京都ホテル**
〒814-0008 行橋市宮市町9-18
☎0930-23-1800

常磐会総会イベント実績

1988(S63)	シルエット劇「角笛劇団」	〈行橋市民会館〉
1989(H1)	講演「ジェームス三木」	〈行橋市民会館〉
1990(H2)	講演「ケント・ギルバート」	〈行橋市民会館〉
1991(H3)	講演「武田 イク」	〈行橋市民会館〉
1992(H4)	講演「橋家 園蔵」	〈行橋市民会館〉
1993(H5)	講演「小川 宏」	〈コスメイト行橋〉
1994(H6)	講演「ケーシー高峰」	〈京都ホテル〉
1995(H7)	講演「井川 良久」	〈京都ホテル〉
1996(H8)	「GSチャリティフェスティバル」	〈行橋市民会館〉
1997(H9)	劇「銀河鉄道の夜」(真夏座)	〈コスメイト行橋〉
1998(H10)	講演「榊添 要一」	〈行橋市民会館〉
1999(H11)	講演「クロード・チアリ」	〈京都高校体育館〉
2000(H12)	能・狂言「野村 萬斎 他」	〈行橋市民会館〉
2001(H13)	講演「桂 文珍」	〈行橋市民会館〉
2002(H14)	講演「宮本 隆治」元NHKアナウンサー	〈行橋市民会館〉
2003(H15)	講演「生島 ヒロシ」	〈行橋市民会館〉
2004(H16)	講演「倍賞 千恵子」	〈行橋市民会館〉
2005(H17)	講演「辻村 寿三郎」	〈行橋市民会館〉
2006(H18)	独演会「春風亭 小朝」	〈行橋市民会館〉
2007(H19)	「山下 洋輔ニューカルテット」JAZZコンサート	〈行橋市民会館〉
2008(H20)	講演「童門 冬二」	〈行橋市民会館〉
2009(H21)	講演「松山 千春」	〈行橋市民会館〉
2010(H22)	精華女子高等学校吹奏楽部演奏会	〈行橋市民会館〉
2011(H23)	講演「金 美齢」	〈行橋市民会館〉
2012(H24)	講演「武田 邦彦」	〈行橋市民会館〉
2013(H25)	京都寄席 The Rakugo! 「円楽独演会」	〈行橋市民会館〉
2014(H26)	「桂 文枝」講演会	〈行橋市民会館〉
2015(H27)	「鈴木 明子」講演会	〈行橋市民会館〉
2016(H28)	「桑田 真澄」講演会	〈行橋市民会館〉
2017(H29)	「渡部 陽一」講演会	〈コスメイト行橋〉

常 磐 会 会 則

- 第1条 (名称) 本会は福岡県立京都高等学校常磐会と称え、本部事務局を母校内に置く。
- 第2条 (目的) 本会は母校を中心として会員相互の連絡親睦を深め、併せて各自の知徳の向上発展を図り、母校の名誉の発揚に寄与することを目的とする。
- 第3条 (構成) 本会の会員は通常会員(福岡県立京都高等学校全日制、定時制、福岡県立京都高等女学校及び併置中学校・専攻科の各卒業生)及び特別会員(同校現職員及び旧職員)よりなる。
- 第4条 (事業) 本会は目的を達成するために次の事業を行なう。
(1) 毎年本校卒業時、新入会員の歓迎をかねて入会式を行なう。
(2) 会報、会員名簿の発行。
(3) 母校の教育振興、会員の親睦向上のために必要と認められる行事。
(4) その他必要と認められる行事。
- 第5条 (機関) 本会本部に次の機関を置く。
(1) 総 会 総会は本会の最高議決機関であつて会員全体で構成し、原則として、毎年8月もしくは9月に開く。また会長が必要と認めたときは臨時にこれを開くことができる。
(2) 役員会 役員会は総会に次ぐ議決機関であつて第7条に定める役員を以て構成する。
(3) 幹事役員会 幹事役員会は会長の諮問に応じ、必要事項を審議する。幹事役員は会長が委嘱する。
(4) 事務局 事務局は本会の会務運営上の事務記録を処理し、会計を掌る。
- 第6条 (支部) 都道府県市町村内または職場に本会支部を置くことができる。
- 第7条 (役員) 本会に次の本部役員を置く。
会 長 1名 役員会が推薦し、総会の承認を得る。
名誉会長 1名 現職校長
副会長 2名 会長が推薦し、総会の承認を得る。
名誉副会長 現職教頭及び現職事務長
顧 問 会長が推薦し、役員会の承認を得る。(会長経験者)
名誉顧問 会長が推薦し、役員会の承認を得る。
監 査 2名 会長が推薦し、役員会の承認を得る。
前年度総会実行委員長 1名 前年度の総会実行委員長
当年度総会実行委員長 1名 当年度の総会実行委員長
支部長 各支部より1名
回生代表 各回生より1名
前事務局長 1名 直前事務局長
事務局長 1名 本会会員で現職員
事務局次長 1名 同上
学校内幹事(事務局員) 同上
- 第8条 (役員の仕事)
会 長 会長は会務を総括し、会合を主宰し、会を代表する。
副会長 副会長は会長を補佐し、会長不在のときはこれを代行する。
顧 問 会長の相談に応じる。
監 査 本会の会計を監査する。
当年度総会実行委員長 当年度当番回生を代表し、総会の企画・運営をし、総会誌を発行する。
支部長 支部を統括し、運営する。
回生代表 当該回生を代表し、回生内の連絡調整を図る。
事務局長 事務局長は本部事務局を統括し、運営する。
事務局次長 事務局次長は事務局長を補佐し、事務局長が不在のときはこれを代行する。
学校内幹事(事務局員) 事務を掌り、処理する。
- 第9条 (任期) 役員の仕事は2年とするが留任を妨げない。欠員が生じたときは役員会において選出する。ただし、任期は前任者の残任期間とする。
- 第10条 (会計) 本会の経費は入会金、寄付金、その他の収入を以て充てる。会員は入会金として12,200円を納入することとする。
- 第11条 (会計報告) 本会の会計年度は4月1日より始まり翌年3月末日に終る。会費の収支決算は総会において報告し、承認を得る。
- 第12条 (会則改正) 改正は総会の出席者の過半数の議決を要する。

付 則

- ・この会則は昭和47年8月より実施する。
- ・昭和60年8月一部改正。 ・平成9年8月一部改正。
- ・平成10年8月一部改正。 ・平成13年9月改正。
- ・平成17年9月一部改正。 ・平成25年9月一部改正。

歴代会長・校長

◎歴代会長

初代	有松 藤代 会長 (昭和24年約半年間)
2代	中尾 夕二 会長 (昭和24～27年約3年間)
3代	白樫 陸子 会長 (昭和27年約半年間)
4代	八田 三千代 会長 (昭和27～29年約2年間)
5代	石田 ハル子 会長 (昭和29年約半年間)
6代	藤田 春子 会長 (昭和29～33年約4年間)
7代	柳田 照子 会長 (昭和33～35年約2年間)
8代	和田 秀枝 会長 (昭和35～42年約7年間)
9代	山路 英彦 会長 (昭和42～53年約11年間)
10代	白井 末利 会長 (昭和53～62年約9年間)
11代	鍵山 俊輔 会長 (昭和62年～平成10年約11年間)
12代	尾形 知文 会長 (平成10年～17年約7年間)
13代	若山 直樹 会長 (平成17年～)

◎歴代校長

氏名	(就任年月日)
初代	中川 直亮 (大正6年3月28日)
2代	大森 実 (大正9年3月23日)
3代	合屋 武城 (大正10年8月25日)
4代	小川 直熙 (大正15年9月27日)
5代	松本 寛吉 (昭和5年5月22日)
6代	浜上 宝作 (昭和11年3月31日)
7代	和田 熊彦 (昭和15年4月30日)
8代	荻原 豊 (昭和22年5月20日)
9代	八田 静夫 (昭和25年4月1日)
10代	木村 利雄 (昭和27年5月19日)
11代	古谷 弘 (昭和30年5月8日)
12代	大堀 孝生 (昭和34年4月6日)
13代	冨本 市平 (昭和38年4月17日)
14代	田頭 喬 (昭和44年4月1日)
15代	米田 栄一 (昭和47年4月1日)
16代	林 真澄 (昭和51年4月1日)
17代	小袋 是郎 (昭和56年4月1日)
18代	香月 晴美 (昭和59年4月1日)
19代	鳥尾 恒美 (昭和62年4月1日)
20代	吉國 岩一 (平成元年4月1日)
21代	岡 泰司 (平成4年4月1日)
22代	梶原 辯二 (平成6年4月1日)
23代	山本 隆生 (平成9年4月1日)
24代	山中 英彦 (平成11年4月1日)
25代	金光 克彦 (平成13年4月1日)
26代	大下 一幸 (平成14年11月1日)
27代	大垣 洋之 (平成17年4月1日)
28代	亀田 陽一 (平成19年4月1日)
29代	武吉 恆 (平成21年4月1日)
30代	中村 潤 (平成24年4月1日)
31代	高須 雅光 (平成26年4月1日)
32代	丸内 毅 (平成27年4月1日)
33代	田中 浩子 (平成28年4月1日)

常磐会本部役員名簿

役 職	備考	氏 名	高校32回生	昭55	中 村 浩 行
会 長	高22	若 山 直 樹	高校33回生	昭56	宗 裕
名 譽 会 長	校長	田 中 浩 子	高校34回生	昭57	執 行 和 彦
副 会 長	女30	品 川 洋 子	高校35回生	昭58	田 原 康 行
”	高31	和 田 雄 二	高校36回生	昭59	高 城 喜 典
名 譽 副 会 長	教頭(全)	青 木 喜 人	高校37回生	昭60	大 村 重 彦
”	教頭(定)	月 森 真 一 郎	高校38回生	昭61	村 上 康 之
”	参事事務長	鶴 我 哲 夫	高校39回生	昭62	吉 田 宗 浩
顧 問	高 4	古 谷 信 一	高校40回生	昭63	村 上 智 信
”	高 4	白 井 末 利	高校41回生	平成元	大 村 安 則
”	高 5	山 路 英 彦	高校42回生	平 2	原 田 幸 一
”	高 8	鍵 山 俊 輔	高校43回生	平 3	森 上 誠
”	高15	尾 形 知 文	高校44回生	平 4	豊 瀬 敦
監 査	高20	小 坪 幸 一	高校45回生	平 5	山 田 卓
”	高21	大久保 正 信	高校46回生	平 6	土 肥 正 典
前年度総会実行委員長	高36	高 城 喜 典	高校47回生	平 7	篠 田 浩 平
当年度総会実行委員長	高37	大 村 重 彦	高校48回生	平 8	中 野 充
勝 山 支 部 長	高21	大久保 正 信	高校49回生	平 9	村 上 和 也
北 九 州 支 部 長	高13	陣 山 建 夫	高校50回生	平10	毛 利 敏 徳
東 京 支 部 長			高校51回生	平11	村 上 剛 史
福 岡 支 部 長	高 8	仲 村 晴 子	高校52回生	平12	藤 井 樹 志
行橋市役所支部長	高29	置 鮎 保 之	高校53回生	平13	右 田 篤 志
回 生 代 表	卒業年度	氏 名	高校54回生	平14	宮 下 壽 文
高女25回生代表	昭18年卒	友 田 房 子	高校55回生	平15	吉 留 雄 介
高女30回生	昭23	品 川 洋 子	高校56回生	平16	友 清 貴 文
高校 3 回生	昭26	廣 松 順 子	高校57回生	平17	二 見 真 紀 人
高校 4 回生	昭27	小 野 秀 明	高校58回生	平18	細 川 早 斗
高校 5 回生	昭28	浜 田 哲 朗	高校59回生	平19	照 本 旭 生
高校 6 回生	昭29	大 江 国 友	高校60回生	平20	馬 場 亮 介
高校 7 回生	昭30	小 松 止 男	高校61回生	平21	有 久 将 司
高校 8 回生	昭31	伊 藤 繁 隆	高校62回生	平22	日 隈 優 介
高校 9 回生	昭32	佐 藤 護 彦	高校63回生	平23	前 田 恵 佑
高校10回生	昭33	塩 塚 誠	高校64回生	平24	鱒 淵 聡 志
高校11回生	昭34	山 内 公 二	高校65回生	平25	隅 田 拓 磨
高校12回生	昭35	角 谷 健 一	高校66回生	平26	定 野 弘 希
高校13回生	昭36	向 井 啓 司	高校67回生	平27	浜 里 俊 吾
高校14回生	昭37	松 下 清	高校68回生	平28	白 川 魁 星
高校15回生	昭38	豊 守 斉	高校69回生	平29	久 保 奨 己
高校16回生	昭39	白 井 啓 吉	定時制高校2回生代表	昭38年卒	中 山 克 己
高校17回生	昭40	佐 藤 政 治	定時制高校6回生	昭42	大 平 英 明
高校18回生	昭41	藤 木 巧 一	定時制高校19回生	昭55	石 川 國 孝
高校19回生	昭42	野 本 俊 一	定時制高校20回生	昭56	坪 根 能 度
高校20回生	昭43	豊 瀬 尉	校 内 役 職	卒業年度	氏 名
高校21回生	昭44	有 門 信 芳	事 務 局 長	高37	玉 江 俊 樹
高校22回生	昭45	石 田 慶 三 郎	事 務 局 次 長	高31	北 川 敏 行
高校23回生	昭46	松 本 高 彦	学 校 内 幹 事	高26	田 中 節 子
高校24回生	昭47	古 谷 芳 樹	”	高28	松 川 幸 憲
高校25回生	昭48	池 田 孝 博	”	高29	古 島 敦 子
高校26回生	昭49	大 下 敏 雄	”	高31	森 林 雅 浩
高校27回生	昭50	内 田 克 彦	”	高34	厩 谷 み ゆ き
高校28回生	昭51	浦 杉 幸 雄	”	高44	青 木 直 剛
高校29回生	昭52	小 野 誠 子	”	高47	田 中 久 美 子
高校30回生	昭53	森 辰 彦	”	高49	石 松 久 美
高校31回生	昭54	和 田 雄 二	”	高55	中 島 幸 宏

職 員 一 覧

職 名	氏 名	担当教科	職 名	氏 名	担当教科
校 長	田 中 浩 子		教 諭	山 本 優 子	数 学
参事兼事務長	鶴 我 哲 夫		教 諭	武 吉 大 輔	数 学
教 頭	青 木 喜 人		教 諭	田 中 健 洋	数 学
主幹教諭	富 田 慎 也	外国語(英語)	教 諭	溝 口 信 也	数 学
教 諭	進 佳 昭	外国語(英語)	常勤講師	武 田 尚 之	数 学
教 諭	脇 山 敦 子	外国語(英語)	教 諭	松 川 幸 憲	保健体育
教 諭	伊 藤 睦 浩	外国語(英語)	教 諭	玉 江 俊 樹	保健体育
教 諭	黄 原 三 佳	外国語(英語)	教 諭	西 崎 拓 哉	保健体育
教 諭	青 木 直 剛	外国語(英語)	教 諭	日 吉 晶 之	保健体育
教 諭	横 山 笛 美	外国語(英語)	教 諭	岡 野 聡 未	保健体育
教 諭	田 中 香 織	外国語(英語)	非常勤講師	高 木 健 太 郎	保健体育
教 諭	永 山 雄 一	外国語(英語)	主幹教諭	仲 江 聖 吾	理 科(物理)
教 諭	北 めぐみ	外国語(英語)	教 諭	南 波 和 昭	理 科(化学)
指導教諭	開 田 涼 子	家 庭	教 諭	北 川 敏 行	理 科(化学)
非常勤講師	岡 田 清 隆	芸 術(美術)	教 諭	田 中 久 美 子	理 科(生物)
非常勤講師	松 田 ひ と み	芸 術(音楽)	教 諭	田 所 優 果	理 科(生物)
非常勤講師	大 森 アユミ	芸 術(書道)	教 諭	奥 田 真 実	理 科(物理)
教 諭	上 森 誠 二	国 語	教 諭	末 松 直 純	理 科(化学)
教 諭	森 林 雅 浩	国 語	非常勤講師	今 安 将 大	理 科(物理)
教 諭	厩 谷 みゆき	国 語	養護教諭	福 田 瞳	
教 諭	増 田 友佳子	国 語	期限付実習助手	中 能 多 鶴 子	
教 諭	左 野 博 陽	国 語	A L T	マイケル ウィリアムス	
教 諭	山 下 葉 子	国 語			
常勤講師	重 松 麗	国 語	事 務 職 員		
教 諭	田 中 節 子	地 歴(世史)	参事補佐 兼事務次長	藤 村 由 美 子	
教 諭	大 塚 宏 志	地 歴(世史)			
教 諭	和 田 法 明	地 歴(日史)	主任主事	山 崎 和 男	
教 諭	石 松 久 美	公 民	主任主事	久 岡 義 明	
教 諭	船 田 裕 樹	公 民	主任技能員	森 美 子	
常勤講師	中 島 幸 宏	地 歴(世史)	主任技能員	村 上 健 治	
常勤講師	山 本 智 美	情 報	主任技能員	松 岡 勉	
主幹教諭	中 山 嘉 憲	数 学	主 事 補	福 山 清 佳	
教 諭	深 田 義 幸	数 学	学校司書補	山 中 順 子	
教 諭	古 島 敦 子	数 学	P T A	浅 川 久 美 子	
教 諭	井無田 雅 博	数 学	P T A	小 山 明 菜	
教 諭	松 野 茂	数 学			

平成28年度 進路概況

進路指導主事 仲江 聖吾

昨年度は、一昨年度より1クラス減の7クラスでしたが、前年とほぼ同数の106名の国公立大学合格者をだすことができました。後期日程や、中期日程まで、最後まで粘り強く頑張った成果です。昨年度はAOや推薦入試での国公立大学の合格者が24名にのぼっています。特に九州大学の21世紀プログラムや理学部、佐賀大学医学部、九州歯科大学歯学科など難関大学・学部にも合格しています。これらの難関の推薦合格者に共通していえることは、授業を中心とした予習・授業・復習のサイクルが定着していたことです。部活動との両立を果たし十分な学力をつけていた者や、大学などが主催する研修プログラムに積極的に参加し課題解決力や表現力を身につけた者などが合格を勝ち得ています。

左図は、本校の国公立大学推薦合格者数の推移グラフです。年々増加していることがわかります。

平成28年度 国公立大学合格者数(既卒生を含む)

設立	大学	学部	人数	設立	大学	学部	人数
国立	山口	医	1	公立	宮崎	工	2
		教育	2		琉球	工	1
		経済	2		鹿児島	農	1
		工	9		静岡	工	1
		人文	1		千葉	教育	1
	九州工業	農	2		島根	総合理工	1
		工	7		大阪	外国語	1
	長崎	情報工	3		北海道	文	1
		医	1		滋賀	経済	1
		環境科	1		筑波	体育専門学群	1
		教育	1		秋田	理工	1
	佐賀	工	4		北九州市立	外国語	2
		薬	2			経済	3
		医	1			国際環境工	2
教育	1	地域創生学群	1				
九州	芸術地域デザイン	1	文	5			
	理工	3	法	4			
	21世紀プログラム	1	看護	2			
	教育	1	人間社会	5			
	農	1	福岡県立	経済	7		
大分	文	1	下関市立	工	3		
	理	2	山口東理科	工	3		
	医	2	福岡女子	国際文理	2		
熊本	共創理工	1	大阪府立	工学域	1		
	理工	2	地域保健	1			
	工	2	横浜市立	国際総合	1		
福岡教育	文	1	九州歯科	歯	1		
	法	1	県立広島	経営情報	1		
広島	教育	2	名桜	人間健康	1		
	教育	1	高崎経済	経済	1		
	経済	1	長崎県立	情報システム	1		

かし、ここ数年、受験者数は増加していません。いままでAOや推薦を考へなかつた成績上位層が、AOや推薦の枠の増加に伴い、受験チャンスのひとつと考えるようになってきたのかもしれない。

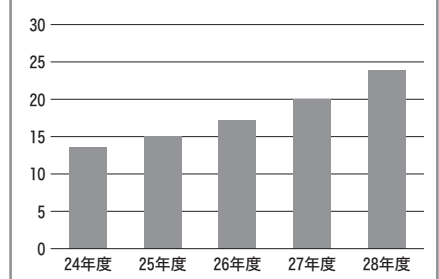
高大接続改革

文部科学省は2020年度(現中学3年生)から実施する「大学入学共通テスト」の実施方針案を発表しました。数学・国語での記述式問題の導入、英語での民間試験の導入などが主な変更点です。まだ幾つかの問題点もあり、今後の発表を注視します。

ていきたいと思

最後になりましたが、常磐会におかれましては、日頃より本校教育にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。今後とも、引き続きご支援いただきますようお願いいたします。

国公立AO推薦合格者数推移



平成28年度 私立大学合格者数

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
福岡	55	九州女子	4	南九州	1	京都橘	1
九州産業	23	久留米	4	福岡看護	1	東京理科	1
西日本工業	23	中村学園	4	日本文理	1	広島国際	1
名古屋外国語	22	同志社	3	四天王寺	1	東洋英和女子	1
近畿	20	福岡女学院看護	3	岡山理科	1	国際医療福祉	1
福岡工業	17	日本赤十字九州国際看護	3	環太平洋	1	東洋	1
西南学院	16	西九州	3	聖徳	1	明治	1
九州国際	14	関西学院	3	宇部フロンティア	1	藤田保健衛生	1
純真学園	9	福岡歯科	2	武庫川女子	1	別府	1
西南女学院	8	武蔵野美術	2	吉備国際	1	京都外国語	1
梅光学院	7	九州看護福祉	2	国士館	1	第一薬科	1
九州共立	6	活水女子	2	帝京	1	徳島文理	1
立命館	6	神奈川工科	2	産業医科	1	亜細亜	1
広島工業	6	筑紫女学園	2	東海	1	相模女子	1
九州栄養福祉	5	秀明	2	日本女子	1	摂南	1
久留米工業	5	中央	2	東京女子	1		
九州保健福祉	5	長崎国際	2	日本	1		
崇城	5	立命館アジア太平洋	2	東京造形	1		

上級学校合格状況・就職状況

平成28年度		現役	過年度	合計
国立大学	73	10		73
公立大学	44	1		44
私立大学	332	42		332
準大学(防衛大学校等)	2	4		2
国公立短大	0	0		0
私立短大	5	0		5
各種学校	45	0		45
事務	0	0	7	7
営業	0			
技能	0			
公務員				
合計				

部活動活動状況

全日制 平成29年5月現在

文化 部		男子	女子	計
1	演劇	0	8	8
2	華道	0	4	4
3	琴曲	0	8	8
4	コーラス	0	6	6
5	茶道	1	8	9
6	写真	2	7	9
7	囲碁・将棋	13	1	14
8	書道	0	11	11
9	放送	3	15	18
10	煎茶	0	2	2
11	文芸	4	7	11
12	美術	1	18	19
13	吹奏楽	16	50	66
14	料理	0	37	37
15	英語 (ESS)	3	16	19
16	科学同好会	5	0	5

体 育 部		男子	女子	計
1	バレーボール	21	21	42
2	バスケットボール	31	24	55
3	野球	27	0	27
4	テニス	21	12	33
5	陸上	21	18	39
6	柔道	5	1	6
7	剣道	9	6	15
8	サッカー	36	7	43
9	バドミントン	31	23	54
10	バトン・ダンス	0	54	54
11	水泳	5	3	8
12	卓球	14	8	22
13	空手道	3	1	4

文化部・体育部 加入率 (%)	男子	女子	全体
	67.8	88.1	79.3

主な戦績 *平成28年4月～29年3月までの期間での県大会以上

体 育 部

<陸上部>

- 福岡県高等学校新人大会福岡県予選
男子走高跳1名、男子八種3名、女子七種1名
- 福岡県高等学校学年別大会福岡県予選
男子走高跳1名、女子走高跳1名、女子三段跳1名
- 全国高校総合体育大会福岡県予選
男子4×100mR、男子4×400mR、男子走高跳2名
男子三段跳1名、男子砲丸投1名、男子円盤投1名
男子八種2名、女子七種1名
- 全九州高等学校体育大会秩父宮賜杯
男子走高跳1名【6位入賞】
- 全国高等学校総合体育大会秩父宮賜杯【インターハイ】
男子走高跳1名【出場】

<バスケットボール部>

- 全国高等学校選抜優勝大会 福岡県予選大会出場

<剣道部>

- 福岡県高等学校剣道新人大会 個人戦1回戦出場

<卓球部>

- 国民体育大会福岡県予選 女子シングルス1名
- 全国高等学校選抜大会福岡県予選 女子シングルス1名

文 化 部

<吹奏楽部>

- 平成28年度北九州吹奏楽コンクール 金賞受賞 県大会出場
- 第32回福岡県吹奏楽コンクール 銀賞受賞
- 第31回福岡県高等学校総合文化祭 吹奏楽部門 福岡県大会出場 優秀賞受賞
- 第10回福岡県アンサンブルコンテスト 打楽器四重奏 金賞受賞 九州大会出場
- 第42回九州アンサンブルコンテスト 打楽器四重奏 金賞受賞

<美術部>

- 平成28年度福岡県高文連美術・工芸部門 福岡県大会 優秀賞2名

<放送部>

- 平成28年度福岡県高校放送コンテスト 朗読部門 県大会出場

職名	氏名	担当教科
参事兼事務長	鶴 我 哲 夫	
教 頭	月 森 真一郎	
教 諭	藤 田 昭 司	国 語
教 諭	峯 野 光 善	外国語(英語)
教 諭	渡 邊 光 治	地 歴
教 諭	吉 浦 祐 二	公 民
教 諭	竹 下 斎 明	数 学
常 勤 講 師	河 村 中	理 科
常 勤 講 師	井 上 翼	保 健 体 育
養護助教諭	寶 田 早 苗	養護助教諭
非常勤講師	二 木 浩 子	芸 術
非常勤講師	野 島 洋 子	家 庭
非常勤講師	小 川 瑞 恵	情 報
主 事	田 中 佑 弥	

定時制近況報告

まず、平成二十八年度の生徒の進路状況をご紹介します。二十八年度は、四年修了生が十五名、三年修了生が二名、計一七名の生徒が卒業しました。在学中からの仕事を継続している生徒もいますが、学校を通じての新規就職者が七名、進学者が二名でした。

次に、平成二十八年度の特徴ある行事・活動をご紹介します。

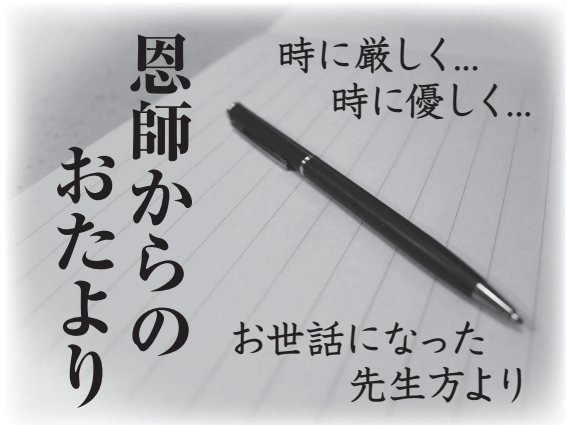
本校で行われた生活体験発表北九州地区大会に三年生一名、一年生一名が出場しました。今までの経験を発表し、優秀賞・努力賞を受賞し、一名は、地区代表として県大会に出場しました。

文化部関係では、四月に行われた北九州芸術祭(書道部門)において、三年生三名が特選、六名が入選となりました。また、行橋市人権週間啓発作品(書道の部)では、二年生二名が入選となりました。高文連書道部門授業作品展においても四年生二名、三年生三名が入選しました。

体育部関係では、高体連定通部北部ブロック卓球大会に四年生が出場し、女子が優勝、男子が四位になりました。また、行橋市大会にも四年生と一年生が出場し、女子が優勝、男子が準優勝になりました。六月には定時制通信制高校陸上競技大会に三年生が出場し三千メートル障害で二位になり、八月に東京で行なわれた全国大会に出場しました。

本年度は、新入生二四名を迎え、全校八三名の生徒数でスタートしました。

生徒たちは、仕事に勉学に全力で励んでいます。



37回生の思い出と 近況報告

37回生 3年1組担任

辻畑 覺先生

平成29年常磐会総会開催おめでとうございます。

皆さん方が入学した時、私は京都高校4年目の32歳でした。振り返ると、ガキ大将になったような気分です。いろいろ無茶なことを指導しました。しかし、皆さんは反抗することもなく付いてきてくれました。今だと、

SNSで拡散されていたでしょう。私の方は学校へ行くのが楽しく、いろいろ創意工夫して充実した日を過ごしていたことを思い出します。

京都高校も今では冷暖房が完備されているようですが、37回生の皆さんの頃は、教室の窓が東向きで午前中は日が眩しくてカーテンの取り合いをし、午後は、風通しが悪く、夏は汗だくで、下敷きでしばらくおおいだ後に授業を始めタオルを常に片手に持って勉強していました。特に女子のセーラー服は暑そうで体育の授業後などは顔を真っ赤にしていたね。よく耐えたと思います。

8限目までの授業・課外、土曜日は、午後も課外授業と定例テストがありました。また毎週、宿題があり、忘れた生徒は、「京都銀座」と呼ばれた職員室前の廊下で指導を受けました。その中でも部活動参加の生徒はよく頑張ったと思います。文武両道を実行して県大会へ出場した部活もありました。

クラスマッチでは、皆が勝利のため団結し、四校競技会では、学年が一つになって多くの優勝を勝ち取り

ました。色々なことが懐かしく思い出されます。

私は、68歳になりました。四国八十八ヶ所遍路を終え、今は篠栗八十八ヶ所を遍路途中です。歩いている間はいろいろなことを考えます。その日の食事、天気のこと、両親や家族のこと、自分のやってきたこと等、頭の中でグルグルと考えを巡らせながらただひたすら脚を進め歩くのです。自然の怖さ、自然の中の人間の小ささ、命の儚さを体感することもできました。

今までに私の言動で傷ついたり、苦しんだり悩んだりした方に、この場を借りて心からお詫び申し上げます。

「子供が高校時代に先生に習いました。」「卒業生の〇〇です」という声を掛けていただきます。ありがとうございました。教えたというよりは生徒の皆さんに私が育ててもらったと感謝しています。ありがとう。

37回生を中心とした役員の皆さんは、今回の常磐会総会開催のため時間を割いて準備をされました。お礼

を申し上げます。

最後になりましたが、福岡県立京都高等学校の益々の発展と皆さんのご多幸をお祈り申し上げます。

37回生の思い出

37回生 3年2組担任

畦津 幸徳先生

高等学校社会科「政治・経済」の教員として5校目に赴任したのが、京都高校でした。夫れ夫れに特徴がありました。現在でも印象に残っているのは京都高校（本校）です。

本校は、大学進学にウエイトをおいていることを赴任当初から知らされていきました。朝、始業時のホームルームで実施される小テスト（主に漢字テスト）が終了すると同時に点検や見直しを行い、最後に家庭学習記録を提出させて、朝のホームルームを終了するという習慣が確立されていました。各授業では始業五分前行動「座席に着席し教科書・ノート・筆記用具を机上に必ず置かせている」、

また、テスト関係では、中間・期末や校外・対外模試の点検、見直しを必ず行う習慣がありました。

大学受験の引率で忘れられないことがあります。熊本大学受験の前日に一人の受験生がボクシングのマネをしていて手首を痛め、藤永先生が病院に同行して事情を説明して治療をして頂き、なんとか受験できる状態となったことです。引率していた我々は、合格の結果を心配していましたが、合格の知らせが届き安心しました。また、新入生の四月の「英彦山青年の家」における研修の思い出として、英彦山の山頂に到着し昼食前に全員集合させ、山に関するリスク等の注意をしている間に、生徒の弁当をカラスから奪い去られたことが記憶に残っています。もう一つ、夏休みの学年合宿キャンプの久住登山では、山なみハイウェイ側からの急な登山道を歩き、休憩を取りながら途中で昼食をし、午後には山頂へ到着しました。山頂から東側に由布岳、南側には阿蘇という眺めはずばらしく、気分爽快でした。法華院山荘に向け下山の途中、盆地状の箇所

には、かつて本校の先輩が霧にまかれ遭難した追悼碑に一礼、その後、山荘のキャンプ地に到着、各班はバンガローで夕食を済まし、登山の疲れもあり全員すぐに就寝しました。

夜半頃から天気が急変し、バンガローの屋根を叩きつけるような雨でした。早朝頃には、バンガローの柱が流された班の生徒を窓から脱出させ、全員無事に山荘まで戻ることができました。早朝頃には、バンガローの柱が流された班の生徒を窓から脱出させ、全員無事に山荘まで戻ることができました。早朝頃には、バンガローの柱が流された班の生徒を窓から脱出させ、

安心したことが記憶にあります。私の事ですが、本校を退職する二ヶ月前から大病を患い、今日まで、小倉記念病院や行橋厚生病院等に治療や検査に通院する日々です。最後に本校の先生方や同窓生の皆さま方のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

37回生と歩んだ3年

37回生 3年5組担任

藤永 義香先生

皆様元気ですか！退職して早くも14年になります。

今、全身に痛みが走っています。日頃の怠けが原因で体育教師にあるまじき毎日・・・、身体のストレッチもせず10年過ごしていたら色々な部位に激痛が走るようになってきました。少しばかりの農作業は、全身運動にもならず役に立ちません。

先日、久しぶりに京都高校へ立ち寄りしました。体育館へ行くと、37回生の玉江君が京都体操の指導をしているのを見て、昔の自分を思い出しました。竹刀で床をコンコンと鳴らし、何回も繰り返していたのが昨日のように思い浮かんできました。当時の生徒も一所懸命に頑張り続け、体育大会で立派に集団発表する姿が私にとってかけがえのない皆勤賞メダルとなっています。

入学するとすぐ英彦山での体験学習、そこでも徒手体操、集団行動、

友情を育み、規律を身につけ、そしてリーダーが育つ。また、卒業アルバムを開くと数々の行事が載っています。クラスマッチ、文化祭など。特に希望者で参加した九重キャンプ

では、何事も自力で行動、時には協力し、そしてできあがった野外炊飯。テントでは、雨の中でも執念で薪を燃やしてなんとか作った夕飯を囲み「いただきます」の声が夕闇のキャンプ場に響く。あの気力・精神力が、最後の入試や就職試験へと力が発揮できた要因だと思っています。

京都高校初のスキー研修を取り入れた修学旅行、寒さと雪の多さに驚き、そして、練習のたびに上達していく実感とともに楽しくなり、もう一日・・・と後ろ髪を引かれながら学校へ。現実にもどればいつもの8時間授業、そしてテスト。誰かが話していた「カラスが鳴かない日があってもテストがない日はない」と。

このような高校生活3年間の節目で書いてもらった感想文、毎日の学級日誌、あるいは学校活動の記録、そのほか、生徒に係わる文書など。先日、山の畑で数日かけすべて燃や

しました。時々読んでは昔を思い出してぼんやり・・・。思いのほか時間がかかりました。

今は趣味の篆刻(てんこく)を毎週火曜の夜に大分県日田市へ習いに行っています。「百年 祝 京都」と刻しました。ボケ防止にと日々努力しております。

卒業生の諸君の悔いのない人生、京都高校の更なる発展、そして卒業生の活躍を中津の空の下で見守っています。皆様と再会するのを楽しみにしています。元気でいてください。

百年祝京都 義香刻



懐かしい思い出

50回生 学年主任・3組担任

亀田 俊隆先生



常磐会総会の開催、誠におめでとうございます。50回生の皆さんが卒業して早20年の歳月がながれ、「光陰矢のごとし」を実感しています。

皆さんとの出会いは、京都高校に赴任して2年目のことであり、母校で教鞭がとれることを大変うれしく思うとともに、責任の重さを痛感していました。

申すまでもなく、京都高校は県内でも有数の進学校であり、前途有為な若者が集い、卒業生は地域を問わず、各界各方面で活躍されています。昨年10月の創立百周年記念式典にも参列させていただきましたが、記念講演をなされた東急電鉄社長の野

本氏も卒業生の一人であり、スケールの大きいとても夢のあるお話で感動いたしました。

ところで、50回生の学年では生徒にもっと主体性や創造性を身に付けてもらいたいと、油田先生の提案で学年行事は生徒の手による企画・運営を試み、学年集会における司会や意見発表、内容構成などを行っていました。手間はかかりますが、生徒手づくりの味がありました。なかでも、一年次の九重キャンプは印象深い学年行事でした。満天の星空と早朝登山の御来光は言葉に尽くせない素晴らしいものでした。飯盒で炊いた飯の味もまた格別でした。

卒業アルバムを見ますと、平成7年から9年にかけて、阪神大震災や東京地下鉄サリン事件、英国ダイアナ皇太子妃の事故死など衝撃的な事件が頻発しています。何か先行き不安な時代でもありました。

なお、当時の教職員の皆様には、公私共に大変お世話になりました。職場を越えての交流は、翌日からの仕事の活力になっていたように思います。そのリーダー的存在が当時教

頭であった金光克彦先生でした。何事も懸命になさる方で、仕事も余暇も全力投球でした。時折、「何かいい話はないか」と耳打ちするので、早速リフレッシュ企画を考え実行に移しました。県教育庁で生徒指導関係の要職に就かれていたとき、「先生、今のお仕事大変でしょうね」と尋ねると、「いや、俺はいつでも今が一番いいんだ。今が最高なんだ」とサラッとおっしゃった言葉を今でも覚えています。先生は15年前、京都高校現職校長のときに他界され、とても残念に思っています。その時、そのひと時を懸命に生きることを教えてくれた恩師でありました。

私は退職してから4年ほど短期大学に勤め、現在は築上町教育委員会で仕事をしております。高校と義務制との違いはありますが、今までの経験を基に微力を尽くしています。

結びにあたり、皆様のご多幸と京都高校の益々の発展を祈念申し上げます。

50回生の皆様へ

50回生 3年4組担任

山口 勝利先生

平成29年度常磐会総会に際してお祝いを申し上げます。一方で、先の豪雨により被災された各地の皆様におかれましては、一日も早い復興を心より祈念申し上げます。

さて50回生の皆様が入学した平成7年は、私の京都高校勤務2年目。同じく前年、京都高校へ転勤の亀田俊隆先生を学年主任とするスタートでした。皆様を迎えるにあたり、これまで折々にお話をしましたが、同じ学年で担任を務めたサクサク神太郎こと神崎博史先生とよく話したこと。それは、「母校京都高校を大切に思う心をもって卒業させたい」というものでした。また、入学式で皆さんを迎えた当時の梶原辨二校長先生が、私自身にとっては高校3年間、部活動の顧問を務めてくださった恩師でもあり、私や神崎先生が話していたことをよく理解してくださいました。そのおかげもあり、語弊

を恐れずに言えば、従前の先輩方が「まあまあ」で済ませてもらっていたことでも、徹底して課してききました。時間を厳守しよう、しっかりと挨拶をしよう、手を抜かずに掃除をしよう。自己のみならず他者を気遣う心等々、どれも当たり前のことばかりですが、その思いを体得した3年後、様々な中学校、様々な校区から集った360名は立派な京都生として、母校への思いと誇りを抱いて卒業をしてくれました。教員にとって卒業式が特別な日であることは言うまでもありませんが、平成10年3月2日の卒業式は本当に幸せな日でした。

皆様の京都生たる誇りは、3年間の学校生活の中で徐々に育まれたものですが、中でも皆さんを一気に成長させたのは2年生での修学旅行だったと感じます。4組の担任的には文化祭の「空き缶」も語りたいところですが、やはり学年全体では修学旅行。当時生徒会長でもあった9組の山形啓二君を実行委員長として、早くから生徒実行委員会を立ち上げ、ほとんど全ての企画・運営を生徒の

手で行いました。旅行中様々な場所で「この学校は生徒が引率をしているようだ」という声を何度も耳にしました。最高の褒め言葉です。実行委員はもちろんですが、それを支える生徒全員の心が一つになった成果だと感じました。「要は気の問題」という油田和則先生の言葉通り、この経験を境として飛躍的に成長した者が大勢いたように思います。それはそのまま進路にも影響を与え、現在、社会のあらゆる場面で活躍する皆様の礎にもなっているのではないかと感じるのは私だけではないと思います。

年齢的にも社会の中堅リーダーたる皆様にかかる期待は大きなものがあります。それ故に降りかかる難問や課題、精神的重圧も多いと思います。しかしながら、住む世界、働く場所は違っても同じ思いを共有できる仲間が世界中に居るといえるのは、何と心強いことではありませんか。本年度総会を一つの契機に、更にその絆を深め、何かしらの折にはサクサク先生曰く「いざ京都」の思いで、その力が結集されることを楽しみに

しております。

最後になりましたが、皆様の益々のご活躍と、皆様の母校京都高校の更なる発展を祈念申し上げます。



62回生の思い出と 近況報告

62回生 3年5組担任

古島 義知先生



62回生が入学したとき私は京都高校に赴任して五年目でした。京都高校は素直で元気な生徒が多く、先生方も個性的で、活気にあふれていました。朝から晩までの授業、部活動や模試や自学自習とともに明け暮れた日々でした。京都高校では3回目

の3年生の受け持ちで、クラスの教室の黒板には、いつもの「素直さ・プラス思考・勤勉さで前進を！」と書き、そして、教室の時計の下にはクラスの書道部の生徒に書いてもらった「受験は団体戦」をデカデカと貼り、4月から張切ってお互いに受験モードに入っていたことを思い出します。今から思っても充実した1年間であったと思います。ちなみに今勤めている学校でも現在、3年生を担当していて、実はその時使った「受験は団体戦」を学年のフロアに張っています。また、「素直さ・プラス思考・勤勉さで前進を！」も学年のスローガンにしています。

3年を受け持っていて特に思い出されるのは、体育大会の行進です。大きな声を張り上げ、一糸乱れぬ動きで手を振り、足を上げての行進は今でも思い出すと胸が熱くなります。また、夏の暑い時、冬の寒い時にも職員室前の机で勉強を黙々と行っている姿や教室で夜7時まで受験勉強を行うたくさんの生徒たちの様子を見て、こちらもがんばらないといけないと思いました。また、文化祭で

の合唱で「青い鳥」をクラス全員で歌い、卒業式でもクラスで最後のホームルームで歌い、感動をしたことを覚えています。その生徒諸君が京都高校で3年間経験したことを経て、今では社会を担って活躍していることを思うと感慨深いものがあります。私の方は今でも「物理」を教えています。授業でいつも言ってきたことを覚えているでしょうか。もう、忘れていくかもしれませんね。まず

①問題をよく読んでイメージをしっかりと持ち、「図」を書くこと。次に②「図」をもとに法則・公式にあてはめていくこと。そして最後に③粘り強く、式展開・計算して解いていくこと。この論理的解法を強調してきました。この解法は実は物理だけではなく社会に出て生かされているのではないかと思っています。

また、最近できた趣味はロードバイクで月に平均500kmを目標に走っています。普段の土日は北九州空港や油木ダム辺りを60kmくらい走り、遠くでは山口県の角島や阿蘇郡の南小国町まで往復200km走ったこともあります。高校時代は高校ま



ですべて重い自転車で行っていましたが、この年になり7kg程の軽量で性能の良いロードバイクを手に入れた、英彦山でも足を着かずに！登ることができ、本当に新しい発見ができています。

最後になりましたが、この場を借りて今回このような寄稿の機会を与えて頂いた実行委員会に感謝いたします。また、京都高校62回生の今後のご活躍と常磐会総会の成功を心より祈念いたします。

お久しぶりです。覚えていますか？

卒業生からの おたより



「卒業生からの お便り2」

高校37回生

1組 森本 泰宏



同級生の玉江俊樹君から、在校生に向けて「卒業生からのお便り」を

記載してほしいという依頼を戴きました。この依頼に対して文章を記載するのは二度目になります。と言いますのも玉江君からの依頼を私が勘違いして在校生へのメッセージとして記述してしまったからです。学生のころから私はそそっかしく、人の言っていることを理解せずに行動してしまう癖がありました。また、学校をよく休み、規律を遵守することはできない学生でした。今でもその多くは改善されていないようです。まさかそのような私が大学で学生を指導する仕事に就こうとは思っていませんでした。おそらく、今回の執筆依頼も私が近隣の大学で働いているので執筆に慣れていると思っただけだったので執筆に慣れていこうと思っただけだったのでしよう。

現在、私は北九州市に立地する九州歯科大学で教鞭をとっております。大学の教員として過ごす生活は辛いこともあります。学生と日々触れ合うことのできる楽しいものです。本学は歯科医師や歯科衛生士を養成する学校であると同時に、口の病気を患った患者を高度な医療で治療する病院でもあります。更には、歯科疾

患を正確にしかも効果的に治療するために新しい手技を開発する研究機関でもあります。特に、新たな治療法を開発する研究は難しいものです。常に新しいことを考え続けていかなければなりません。一つの研究が実を結び、国際的に論文という形で発表できた際には非常に嬉しく達成感を得ることが出来ます。しかしそれは、新たな研究に着手しなければならぬことを意味しています。この繰り返しの中で、教育や臨床を行わなければならない。勿論、仕事をしながら賃金を得て、社会的責任を果たしていくのはどのような仕事でも同様に大変でしょう。このような時には京都高校時代に培った根性があるをいうようです。当時、毎日の朝テスト、週ごとの定例テスト、学期ごとの中間・期末考査、年に5回の実力テスト、更には不定期の業者テストがありました。数多くのテストを受けるために勉強しなければならず、常に追い込まれる環境に身を投じるように指導されていたと思います。そのような中、努力により結果を残すことで、困難にぶつかった時でも

それに立ち向かう姿勢を学べたのだと思います。また、苦しい時には友達とお互に励まし合い、助け合う姿勢も学ぶことができたのだと思います。

古き昔は人生50年といわれたものです。私も50歳になり人生の一つの節目を迎えることができました。30、40代に比べると身体の衰えは明らかであり、以前のように自分自身で研究や診療に打ち込んでいくことには陰りがあると感じます。一方、私の専門科目に興味を持ち、入局してくれる若者もいます。彼等と話す中で、自分で行ってきた研究や診療を継承していくことの大切さを以前より増して理解できるようになってきました。そこで、私は新たな目標として次世代を担う人材の育成を掲げ、日々努力していきたいと思っております。残りの教員生活を意味あるものにするために京都高校で培った根性を再度奮い立たせ、社会の役に立つ人材育成を遂行していきたいと感じています。

京都高校卒業生

としての思い

高校37回生

2組 義間 健二

2017年度常磐会総会のご盛会を心よりお祝い申し上げます。

美しい自然と利便性を兼ね備えた、この行橋市にご縁をいただき、4月1日に副市長を拝命いたしました。

気を引き締めて街づくりに取組んできたいります。どうぞよろしくお願いいたします。

久しぶりに本市に降り立ってみますと、高校時代に旧行橋駅舎から高校までを徒歩で通学していた頃と比べ、行橋駅が高架駅となり、南行橋駅が新設されるなど本市の発展には目を見張るものがあります。

自己紹介としまして、高校卒業後の私の経歴を記載させていただきました。

高校卒業後は県外に進学し、卒業後は、福岡県に土木技術職として就職しました。勤務地は、直方市5年↓福岡市4年↓糸島市1年↓福岡市

5年↓篠栗町3年↓直方市2年↓福岡市4年↓北九州市2年(前職)の通算26年間を経て、大学時代を含めますと32年ぶりに行橋市にお世話になることになりました。

思い起こしますと、私の高校時代は、進学校である京都高校の「看板」や、時間と費用をかけた電車通学、両親の期待などに気圧されて、成績はいざ知らず「受験戦争」に飲み込まれた3年間だったように思います。しかし、現在思うに、大学進学・就職・そして今日まで土木行政に関する業務を「やりがい」を持って続けて来られたのは、京都高校でのご指導の賜物であるとしみじみ感じます。授業の質の高さ、文化系・体育系の部活動も盛んで、素晴らしい校風の高校でした。

常磐会会員の皆さま方とお近づきになれたことを契機に、行橋市の様々な魅力を皆さまから教えていただきながら、微力ながら本市の発展に寄与できるよう努力してまいります。皆さま方の温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。私のお願ひ申し上げます。

近況雑感

卒業から32年を経て

高校37回生

4組 増森 珠美



転勤を重ねて現在は大阪に住んでいます。年に数回は実家のある豊津に帰省します。行橋の駅舎や今川沿いの風景は、自転車でも高校に通っていた昭和60年頃に比べると様変わりしましたが、京都高校の周辺は当時の面影を残しています。車窓から、水色のスポーツバッグを乗せて自転車をごせーラー服の女子高生を目にする、つい目で追ってしまいます。

高校卒業後に上京して大学で学んだ後、司法修習を経て平成3年に裁判官に任官してから25年以上になり

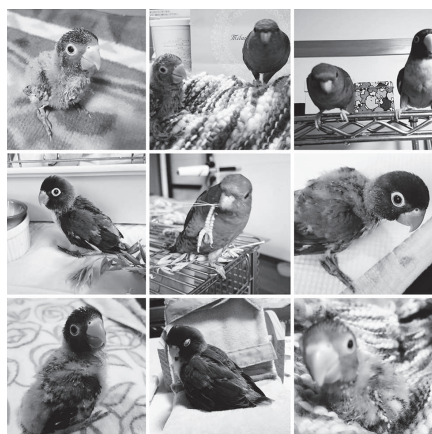
ます。その間、東京、福岡(小倉)、大阪、沖縄と各地を転々とし、平成25年からまた大阪地方裁判所で勤務しています。これまでもつぱら民事通常事件を扱ってききましたが、時代や地域により事案の性質も様々です。先例や明確な条文の規定がなく、頭をひねって紛争解決のためのロジックを考え出したり、乏しい証拠から説得力のある事実認定をしたりと、思考力の限界を試されるような状況に置かれることもあります。限られた時間内で適切に案件を処理することも求められます。長期、中期、短期で計画を立てて効率的に課題をこなすという点では、高校時代の鍛錬がいまに役立っているともいえます。

仕事の傍ら、スポーツクラブでヨガやピラティスのクラスに参加したり、休暇を利用して国内外を旅行したりと余暇も楽しんでいきます。1昨年の秋には10日間ほど西海岸を旅行しました。平成7年頃、アメリカに1年間留学しましたが、そのとき以来約20年ぶりにサンフランシスコやヨセミテを訪れました。留学当時は日本に国際電話をかけるのも一苦勞

でしたが、今回はLINEで簡単に連絡を取ることができ、通信技術の進歩を改めて実感しました。

大阪では、サザナミインコ、ボタインコと同居していて、朝は賑やかすぎるさえずりに起こされます。

裁判官の定年は65歳なので、折り返し地点を過ぎたところですが、どこへ異動になるかわかりませんが、いずれまた福岡の地で勤務する機会があればと願っています。



「京都高校との向き合い方」

高校50年生

1組 井手 飛人



正直に言って、ぼくは京都高校が好きではなかった。

ある程度の学力のある当該学区の中学生なら、まア、目指して当然。誤解を恐れず言うならば、決して多くはない選択肢から導き出される当然の進路。そんな中途半端な気持ちで入学したのだから、土台、気持ち学校に向かない。

いきおい学業に対する取組姿勢は悪くなり、成績は地を這う。実力テストで360人中358番だった時、「下には下がいる」と下卑た幸福感に包まれたのも束の間、テストの日

には2名も欠席者がいやがった！文化祭PRポスターに描いたのは絵ではなく「勉強禁止令」の5文字。嘘偽らざる心の澱が滲み出た。進学校で成績が悪いことがまあ惨めなこと惨めなこと。

とにかく打ちのめされていた16歳の頃。自己肯定感が通減すればするほど、ダメな自分に正直に向き合うのが怖くなる。自分に向き合えないもどかしさが母校への嫌悪感に巧妙に置き換わる。ぼくは盛大に愚かだったのである。

ところが、長じて無性に母校が懐かしい。いつも手を焼いた数宿、英宿、一日一問。早く帰りたいで仕方のなかった7限・8限授業。古ぼけてカビ臭い部室。体育館が温かい空気と一体感に包まれたジローヨシダのコンサート。勉強そっちのけで取り組んだキャンパ実行委員。ブレイク前の養老孟司先生の講演会。多くの生涯の友との出会い。嗚呼、ぼくがどんなにひねくれて母校に無関心を装っていても、この20年間、京都高校はぼくの頭の片隅に着実に根を下ろしていたんだなア。

さてさて、近況報告もせねば。高校時代、学業面で地に墜ちたぼくは、2浪の末、第一志望校に合格。何を思ったか、就職後に大学院まで修了する勉強っぷり。人は変われば変わるものと実感。現在は東京在住、生命保険会社の経営企画部門で、グループ会社の企業価値向上や業務提携先とのリレーション強化、M&A検討等々、得難い経験をさせてもらっている次第。ちなみに、現在の所属部門の担当役員は何と京都高校OB!!これを僥倖と言わずして何と言う。不思議な御縁に感謝。

夢に向かって走ろう。でも夢がない。無理してでも探す?いや、探さない。勝手にしやがれ!そうさせてもらおうよ。

「自信過剰はサヨウナラ」

総会寄稿

高校50回生

3組 堀 大助



時々、ゆめタウン前の交差点で街頭演説をしている。この場所がある意味自分の政治の原点であり、初心に戻る場所でもある。

さて、ここに立っていると、時々、京都高校の後輩たちに出会うことになる。僕らの時とは形は変わったが、赤・青・緑3色のスポーツバッグはすぐに京都生のそれと分かる。調子に乗って僕は、「やあ、後輩!」とマイクで語り掛ける。苦笑いをして多少の愛想を返してくれる後輩はなんとかわいいうつらだ。

他方、敬うべき先輩方も多数。現行橋市長の田中純先輩、山本幸三大臣、松山政司参議員と、僕が身を置

く政治の世界にも沢山の京都生が。昨年の100周年記念行事には、NY在住ギタリストの吉田次郎先輩、そして渋谷の街を創り上げている東急グループの野本総帥と凄い面子。同窓でなければ会えない人ばかりです。

僕がここで言いたいのは、世の中にはいろんな関係性、コネクションってあるけど、同窓・同郷の絆というのは、中でもとても強くて固いものだという事。10何年かぶりにあっても、「何しよんか、キサン(笑)」の一言でグツと距離が縮まり、その後はその時のような関係性にすぐ戻れる。何とも心地良い瞬間だ。

僕は今、故郷で県議会議員、そして弁護士として稼働している。どちらもなかなか「やっかい」だが、大変やりのある仕事だ。そして、どちらの仕事でも、京都のセンパイに大きく助けられている。僕のじいちゃんや、「大」きく「助」ける人間になりなさいと名付けた名前だが、実際は、「大」きな「助」けを受けている。そのことについては、なんとするか、素直に嬉しい。助けられる

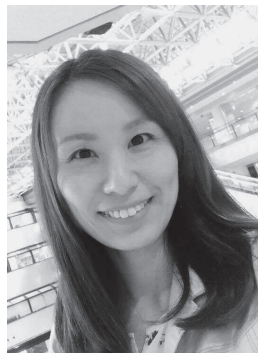
から、助けることができる。僕は、後輩として、京都高校の多くの先輩に助けられた。だから、次は、僕らが先輩として、後輩たちを助けられるようになったら。

先輩後輩の絆を次々に紡ぐ、母校の意気昂し。

「学び続けています」

高校50回生

8組 斉藤 麻衣子
(旧姓 平塚)



京都高校を卒業して20年が経ちました。

教科書や辞書が詰まった重いカバンと赤バッグで登下校したこと、何時間もある授業と宿題の多さというざりしながら通学したこと、学校帰りに行橋駅前のラーメン屋やカラオケボックスに旧友とよく行ったことなど、全てが懐かしく良い思い出です。

私にとって京都高校での日々は、卒業後、今もなお続いている「学び」の礎となっています。

京都高校を卒業後、大学に進学し、大学卒業後は当時の新卒採用状況が厳しかった中、唯一内定をいただいた民間企業に入社しました。その後、東京都内の地方自治体に公務員として転職し、さらにその9年後、フアイナンシャルプランナーとして独立しました。2度の転職を経て今に至ります。

転職、結婚、出産など、様々なライフイベントを経験し、その度にステージが変わりました。

振り返ると高校生以来ずっと、その時の自分にとって必要な学びを続けてきたように思います。

今は鳥取県の大自然の中で子育てをしながら、本業である金融を始め、教育、マーケティング、心理学など、次々と湧いてくる興味に従って学び続けています。学生時代と違うのは、学んだことを仕事としてアウトプツ

トする機会を持つようになったことです。

高校時代の自分にもしいま会えるなら、主体的に学ぶことは楽しいことだと、明るい未来へ導いてくれる対象として興味を持って学べば、きつともつと勉強が面白くなるよと、教えてあげたいです。

最後になりますが、常磐会の活動にご尽力されておられる方へ、感謝申し上げます。

近年は同窓会なども少なくなり、また、遠方に住んでいることもあり旧友と会う機会もあまり持てなくなりました。Facebookを通じてこの寄稿の依頼をお受けしたご縁を、大変嬉しく思っています。

常磐会と、在校生および関係者の皆様の益々のご発展をお祈り申し上げます。

16人の仲間とともに

高校62回生

5組 日隈 優介

「常磐会総会に向けての仕事を手伝ってほしい。」実行委員長である大村さんからそうやって声をかけていただいたとき、正直大変だろうなと思った。仕事内容ももちろんだが、何より自分たちの世代は人が集まらないのではないかと思ったからである。

3世代で協力して行う常磐会総会にむけての準備だが、今回私たちは一番下の世代になる。いわば、責任からは一番遠い世代なのである。しかし、当然仕事はそれなりに割り振られてくる。私もし62回生の代表でなかったなら、誘われたとしてもおそらく断っていただろうな、そんなことを思いながら始めたものだから、仕事を一人でしなければいけないのではないか、それが今後3回も巡ってくるのではないか、そんな不安でいっぱいであった。

そこで、私は自分の身近にいる、

確実に手伝ってくれるであろう人物から声をかけていった。一人、二人と少しずつ人数は増えていった。それだけでも本当にありがたいことだったが、そこからさらに人数は増えていった。一緒に手伝ってくれる人がさらに声をかけてくれたのである。人数は増え続け、気がつけば16人も手伝ってくれる人が集まってくれた。もちろんこの中には、中々会議に顔を出せない人もいるし、仕事や家庭の事情で仕事が出来るときと出来ないときに分かれている人もいる。それでも、大変だとわかっていている仕事の手伝いをしようと思ってくれている人がこれだけいることに本当に感動させられた。

先日協力回生のつどいが終わり、実行委員会としての仕事は折り返し地点を迎えたが、それは同時にこれからが本番だとも言える。しかし、初めの頃のような不安は今の私にはない。なぜなら、今の私には16人の強力な仲間たちがいるからである。正直に言えば、自分の仕事がちよつとでも減ったらいいなーという思いで集めたのだが、今はまったく逆だ。

何とか一人一人の負担を減らし、気持ちよく仕事に取り組んでもらえたらと願っている。そして、できることなら今後2回の当番回でも一緒に仕事をしてもらえたらと思う。





思い出の アルバム ★37回生★



3人と3人で「キリッ」





おいしいのができるかな。。。



名古屋駅にて。。。



井

井上
本郷



ウズウズ

ふかつ



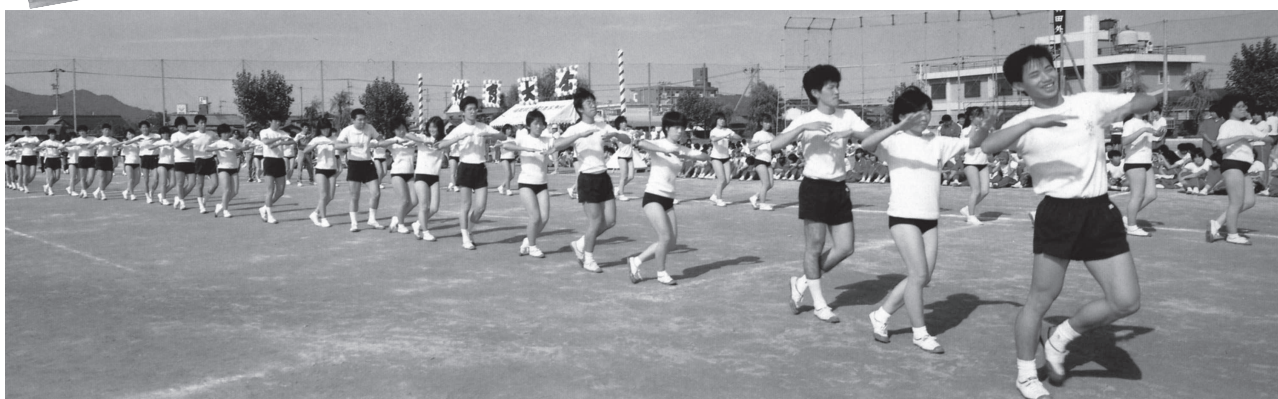
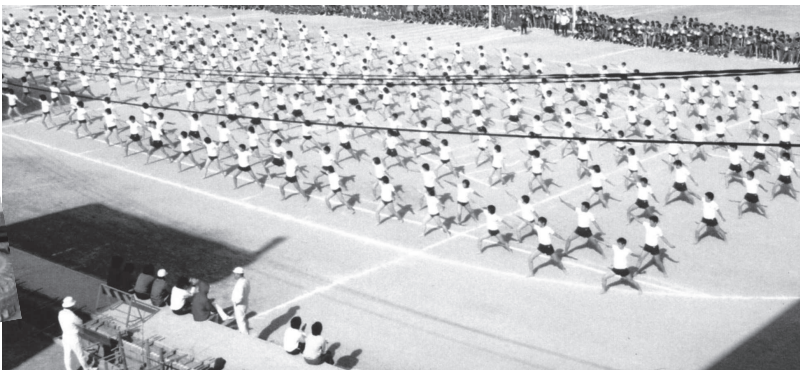
んんん

んんん

ぎょえーっ

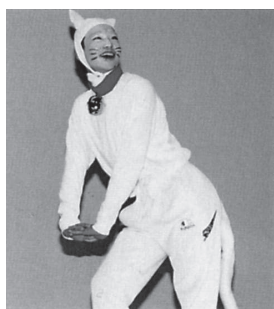


福岡県立京都高等学校同窓会常磐会2017





思い出の
アルバム
★50回生★



福岡県立京都高等学校同窓会常磐会2017





思い出の アルバム ★62回生★

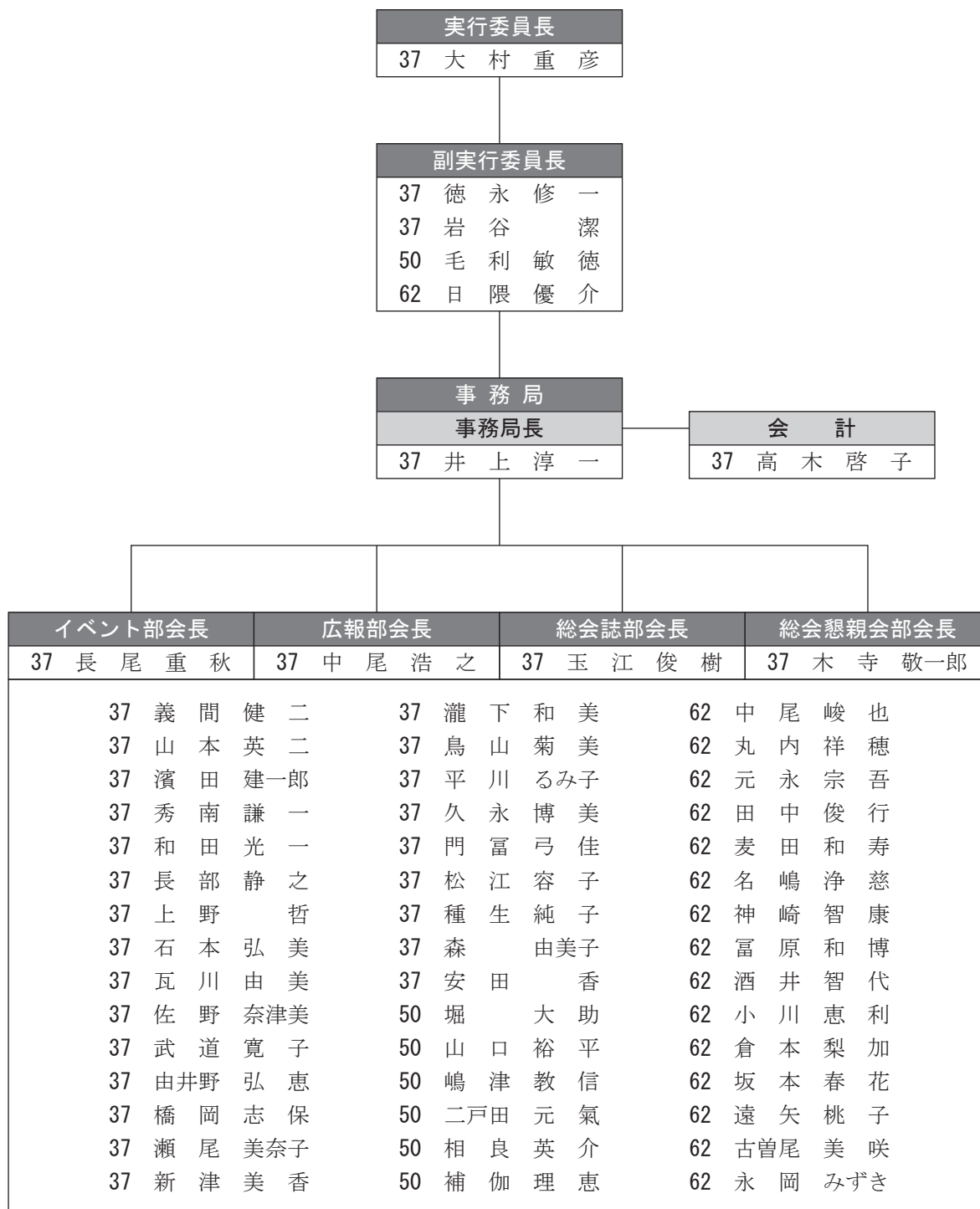




2017年 常磐会総会・協力回生のつどい



2017年度 常磐会総会実行委員会組織図



※数字は回生

2017年度 常磐会総会誌

発行日 2017年9月3日
 発行 2017年度
 常磐会総会実行委員会
 印刷 有限会社 京都印刷

祝 常磐会総会

京都ホテル

Special Plan

お祝い事や法事、各種ご宴会などにご利用ください。

※特別プランのため、30名様までの対応とさせていただきます。



※写真はイメージです。

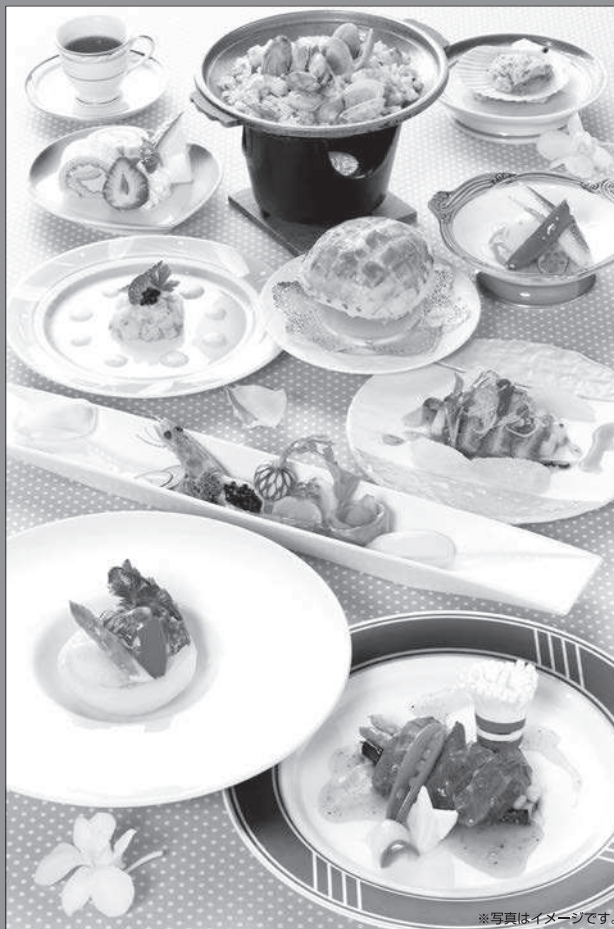
中華会席

おひとり様
(税・サ別)

5,000円コース

※飲物は別途料金
となります。

※食材の仕入れの都合により、内容が異なる場合がございます。



※写真はイメージです。

洋風会席

おひとり様
(税・サ別)

5,000円コース

※飲物は別途料金
となります。

※食材の仕入れの都合により、内容が異なる場合がございます。

マイクロバスをご利用ください ●お申し込み・お問い合わせはお早めどうぞ



ありがとうございます



心つくして、おもてなし。
京都ホテル

〒824-0008 福岡県行橋市宮市町 9-18

TEL.0930-23-1800(代)

FAX.0930-25-5290

E-mail miyakoh@circus.ocn.ne.jp

URL <http://www.miyako-hotel.co.jp>

京都ホテル 行橋

検索

クリック

Blank form area with multiple rectangular boxes for text entry.



福岡県立京都高等女学校同窓会



福岡県立京都高等学校同窓会

〔当番回生〕

昭和 60 年卒業高校 37 回生・昭和 60 年卒業定時 24 回生

平成 10 年卒業高校 50 回生・平成 22 年卒業高校 62 回生